

## 第2次東よか干潟環境保全及びワイズユース計画(案)

ラムサール条約で取組の基盤として掲げる「保全・再生」、「ワイズユース(賢明な利用)」、「交流・学習」の3つの柱を軸に、それぞれに基本目標を掲げ、目指すべき将来像に向けた各種取組を進めていきます。

### 目指すべき将来像

「未来につなぐ 湿地と私たちの持続可能な暮らし」

### 計画の概要

※赤字は今計画で新たに取り入れた施策や活動

I. 保全・再生 (P48~52)		佐賀の誇りを未来へ
東よか干潟の豊かな自然環境、生物多様性を大切な資源として保全し、佐賀の誇れる美しい自然環境を将来世代に継承します。		
基本施策	取組	主な活動
1. 環境調査・把握の仕組みづくりと対応方針の検討	① 環境データの定期的な収集 ② 環境変化の要因把握のための調査の実施 ③ 環境情報の共有の仕組みづくり ④ 干潟環境の変化の把握と中長期的な対応方針の検討の仕組みづくり	・野鳥、底生生物、植物の調査 ・ <b>潟泥(がたどろ)の堆積による干陸化(かんりくか)の要因把握</b> ・各種調査データ・記録の確認・集積 ・ <b>環境変化、課題への対応を検討する協議の場の設置</b>
2. 干潟環境の保全・再生の取組の推進	① シチメンソウの保全活動 ② 海岸漂着物対策(海洋プラスチック問題) ③ 流域を対象とした環境保全、防災・減災の推進 ④ 干潟及びその周辺の生物の生息環境の保全・再生	・シチメンソウ群生地等の保全活動 ・海岸清掃イベントの支援 ・干潟へのごみの流入対策 ・干潟周辺の鳥類・水生生物の生息環境の保全・再生

II. ワイズユース (P53~56)		干潟の恵みを実感
先人の知恵に学びつつ、生活や産業活動との調和を図り、現代社会に適応した賢明な利用により、自然環境を持続的に活用します。		
基本施策	取組	主な活動
1. 観光への利活用の推進	① 新規来訪者の獲得とリピーターの確保	・季節・周年イベントの開催 ・外国人観光客の誘致(多言語による情報発信等) ・干潟よか公園との連携
2. 産業への利活用の推進	① 東よか干潟の文化や技術の継承 ② 干潟の恵みを感じるラムサールブランド商品の開発、販路の検討 ③ ブルーカーボン・クレジットの活用可能性の検討	・有明海の伝統漁法や食材等の伝承 ・シギの恩返し米 ・ <b>東よか干潟のブルーカーボンの機能評価、調査の検討</b>

### Ⅲ. 交流・学習 (P57~62)

### 学び、つながり、広げる

東よか干潟の価値や重要性を多くの人が体感し、学び交流する機会を創出するとともに、さまざまな主体が連携し情報発信するなど、保全・再生とワイズユースの取り組みを支えます。

基本施策	取組	主な活動
1. 交流・学習活動の推進	① あらゆる世代を対象とした交流・学習の機会の創出 ② 多様な視点を取り入れたプログラムの実施・検討 ③ 他の条約登録湿地との情報交換・交流・連携の推進	・ラムサールクラブ、ボランティアガイド等の活動 ・ <b>修学旅行の誘致</b> ・体験・教育プログラムの整備・充実 ・国内湿地との交流・連携 ・ <b>国外湿地との交流・連携</b>
2. 交流・学習拠点の活用	① 拠点施設の機能拡充と情報発信による認知度の向上 ② 施設展示と体験プログラムの充実	・ひがさすの情報発信・認知度向上 ・環境学習の場としての活用、他の環境学習施設との学習プログラムの検討

### 重点施策 (P63~65)

#### ① 干潟の環境調査の実施 (取組Ⅰ-Ⅰ-②)

干陸化の進む東よか干潟及びその周辺において、環境変化の状況を多面的な視点で把握するとともに、環境変化により発生すると考えられる懸念事項を整理し、その対策や対応方針について検討します。本計画期間初期の5年間で、検討のための組織の立ち上げ、懸念事項の整理、調査計画の作成、データ・参考資料の収集を行い、**継続的に監視や順応的対応を行っていくための基盤を構築**します。

#### ② 探求型・アクティブラーニング型修学旅行の誘致 (取組Ⅲ-Ⅰ-①)

近年、“探求型・アクティブラーニング型修学旅行”が注目されており、**東よか干潟を題材とした修学旅行の誘致**に取り組みます。探求型・アクティブラーニング型修学旅行では、事前の課題の設定、現地での情報の収集、事後の情報の整理・分析と、とりまとめた内容の発表の一連の流れが求められます。この流れに対応できる**“東よか干潟ならではの”魅力的なプログラムの確立・実施体制の整備**を進めます。

## 推進体制

「未来につなぐ 湿地と私たちの持続可能な暮らし」

